

会報 No.330



キャリア・コンサルタント

2022年（令和4年）8月号

8月9日発行

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合

発行責任者：渡邊 健三

〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F

TEL：03-3256-4167（代表）

直通電話：営業本部 03-6821-7544

：外国人材受入事業部

03-6826-7789

FAX：03-3256-4168

E-mail：[事務局] jimukyoku@ccco.jp

[営業本部] eigyo@ccco.jp

URL：<https://ccco.tokyo>

<http://ccco.jp>

編集長：田中 努

編集者：山本奈美 大野長壽

中野 忠 福田秀樹

バックナンバー：

<http://www.ccco.jp.shosiki.kaiho.html>

1. CCK 事務局勤務を振り返って

賛助会員 影山 和子

2. 影山さんお疲れさまでした。

顧問 栩木 義彦

3. ごあいさつ

事務局員 山本 奈美

（特別寄稿 21 回）

4. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳 孝彦

（記憶に残る西部劇 その9）

5. 「シマロン Cimarron 1960」

元日立ビルエンジニアリング 常務 小泉 幾多郎

（しごとの落とし文 第2回）

6. プラスチックの成型・加工会社

田園 中児

7. 事務局だより

事務局

一粒万倍

1. C C K事務局を振り返って

賛助会員 影山 和子

私は5月末日でC C K事務局を退職いたしました。こんなに長く勤めが出来たのも皆様が暖かく、優しくお付き合い下さったのだと深く感謝しております。

18年前、42年余り勤務した会社の元上司の榎木さんから電話がありました。「今何している？何か仕事している？」。ブラブラしていた私は「暇してまーす！」「じゃあ、自分が理事長をしているキャリア・コンサルタント協同組合の事務を手伝って見ないか？「万世」でお昼ご馳走するから一度来てみて」とのお話！お昼の「万世」につられ早速C C Kに伺いました。

初めて見た事務所は、各机にパソコン、男性ばかりの部屋、何だか難しそう・・・まず榎木さんから「協同組合とはどういうものか？どのようにして立ち上げたか？組合のメンバーはこのような人達で、これからも十分やっていける確実な組合です」との説明。元の職場ではパソコンがようやく各自一台導入されたばかり、当時の担当業務は事業本部長（役員）の秘書的な仕事。パソコンを使うのは会社から指定された通りに役員動静入力、入出金入力、接待・会議等の案内、接待後の礼状作成位しか使いません。

榎木さんに「あまりパソコンはできないのですが」と言うと、難しいパソコン業務はないから大丈夫。今請負っている仕事の封書の宛名書きや発送、C C Kへの来客のお茶出し、企業ブレーンの会計伝票の整理、会計ソフトの入力位と言われました。それなら私にも出来ると思うのでよろしくお願いします。毎日出勤は辛いので週に2回出勤ということになりました。

田中さんから「来客が来たらお茶が出せるようにし、事務所らしく整理整頓、カタログやパンフレットの整理、ファイリング、経理事務の手伝い、文書の清書、その他庶務的な事、メールの受信チェック、発信、3時におやつ準備勤務時間後の軽い飲み物準備等々と」言われました。

前任者が居ないので事務所整備は手探り、近所に日用品を売るショップやスーパーも見当たらず、古そうな年配の方の店で聞いてみると「神保町に富士スーパー」があると教わり早速布巾やバケツ、洗剤等コマゴマしたものを買いそろえました。当時買った布巾が最近擦り切れ来たのを見て「私も布巾も長持ちしたなーと」感慨一入・・・

当時のC C Kは貧しく、荷物紐を1個買うにも100円ショップよりもスーパーで買った方が税金分が安い、シャープペンが文具店より100円ショップがお得！等田中さんと喧々譁々、我が家の近所のスーパーでプラスチックのケースを買ったり、100円ショップでコーヒークップセットを買って事務所まで持ち込んだり、田中さんも自宅の近くで安く必要品を求めて持て来て事務所内を整えました。

ロッカーや戸棚の中に仕切りやケースは買えず、コピー用紙の入っていた段ボールの空き箱で棚を作ってパンフレットや資料を取りやすいよう工夫をしました。今少し余裕が出来ている内に流しの下の棚はそろそろアスクルで使いやすい物と買い換えてはと退職しても思ったりして・・・

いつも田中さんの指示で仕事していましたが、平成 18 年（2006 年）1 月の「賀詞交歓会」の日事務所で田中さんが心筋梗塞で倒れ救急車で搬送されました。お正月で救急車の到着も遅く、乗せた救急車もなかなか出発せずハラハラ！高木さんが病院まで同乗、「何とか無事に手術も終わり大丈夫」と事務所に連絡が入りホット胸を撫で下ろしました。

翌日河合さんから「影山さんが居てくれてよかった！しっかり経理を見て下さい」と言われるが、経理の何かもよくわからない自分が「無理だわ！」とドキドキ。預金通帳の残金は家賃を払うお金もありません。理事長の榎木さんが何とか工面されると言う有様。田中さんの入院先が日本大学駿河台病院で近くなので、安静にしていなければならないのに、病院まで聞きに行きたり、電話で指示を受けたり、何しろ田中さんしか解らないので仕方ありません。病院で田中さんの奥様にお会いしましたが美人で上品な方です。さすが慶應ボーイ！余談ですが・・・

それ以外の仕事は山脇さんに教わりました。パソコンいじりの初心者の方に覚えるまでとことん付き合ってもらって下さり、自分の仕事の合間に教えるのですから大変だったと思います CCK が入っている中央会のパソコン講座や富士通の練馬教室に通っていろいろ勉強しましたが、現実、必要に迫られる仕事で解らないことは周りにいるメンバー聞きながらやって覚えたようなものです。当時は CCK の案内や啓発活動のイベントが沢山ありました。山脇さんのポスター作りの手伝いや会場でのスタッフ作業、会食のお世話など結構面白い経験をさせて貰いました。3 時のおやつタイムはそれぞれ自分の仕事をされている皆のコミュニケーション、憩いの場所です。おやつ会費からおつまみを買うのですが初めはコーヒー代もそれからひねり出していたので、いかに安くて美味しいものを買うか頭を痛めました。でも昨今はお菓子の値上がりにビックリ、会費で間に合うよう工面するのに四苦八苦です。でも後任の山本さん大丈夫！足りなくなりゃ皆から集めれば良いのです気にしないで美味しいものを準備下さい？・・・私は会議には出ませんので CCK の状況や皆さんの思いをおやつタイムの会話で押し量ることがしばしばでした。

入った頃は榎木さんも田中さんもメンバーさんもお若かった。一仕事終わりの一杯を事務所の会議室でやることもしばしば。ビールと乾き物のおつまみを用意して置きそれぞれビール代をおやつ会費を入れてもらいました。又暑気払い、忘年会だと事務所で飲み会が行われましたが余り乾き物だけでも色気が無いと言うことでコンビニや 1 階にあった中華で出前を運んでつまみを用意した。

その内風巻さんと大野さんが企画した、フランスワインの試飲会「ワインパーティー」をやることになりました。当然つまみ用意は私が担当です。麻布十番のスーパーまで大野さんと石井さんがワインの買い出しに行きます。つまみはお肉を大野さんが家で焼いたローストポークかローストビーフ、風巻さんのご希望はマンゴーの生ハム包み、白魚のカルパッチョ等が良いと言われました。しかしあまりワインを飲む習慣の無い私はカルパッチョがどんなものか知りません。マンゴーなんて大野さんが買ってきたのを手に取るのが初めてと言う次第！どうやって皮剥くの？包丁を入れたら種が平ぺったいなんて知らなかった！キッチンの施設のない流し場で、レシピのコピーを手にスーパーで買った鯛の刺身を切ってオリーブオイルでカルパッチョ作りに悪戦苦闘！何しろ予算が少ないしフランスワインはそれなりのお値段！手作りしかないか？まあ、彩どりには自信があり！とはじめてのレシピは次の通りでした。

マンゴーの生ハム包、さらし玉ねぎ敷スモークサーモンレモンドレッシング、鯛と帆立のカルパッチョ、大野さん自家製のローストビーフ・ポテトサラダ添え、ハム・ソーセージ盛り合わせ薄切りパンに鴨のテリーヌ、タルタルソースブルーチーズのゴルゴンゾーラとカマンベールチーズ、クラッカー添え、口直しのステーキ、色々な野菜、何回かやるうち参加者が20人を超えた時はパニックになりました。でもよく考えるとワインの試飲会です。ワインが主役なのにお腹一杯になる程つまみを作ることはなかったと反省しています。

暮れの仕事納め、初出の新年会と事務所の会議室で飲み会がありましたが、今ほど組合が裕福でなかったか、田中さんが渋かったか出前は取れず結局手作りか、スーパーで買って出すしかありません。新年会は暮れに自宅近くのスーパーで買い置き、煮しめは我が家と事務所用にと2回作ることになりましたが、皆さんの「美味しいよ」の一言がうれしかった。嫌いじゃなかったのです。

ここ数年矢張り歳ですなー、作れなくなりました。でもCCKがあ頃より豊かになりましたしケータリングも充実しているのでこれからは楽に出来そうですね！CCKで多くの方と出会いました。これもお勤めしていたお陰です。

田中さんとは事務所で顔を突き合わせる時間が一番長く、性格や癖、良いも悪いも、わかり合えたと感じます。私が言いたいことを言うので大分不愉快で手こづられたと思います。すみませんでした。最近は何で怒ってばかりいるんだと言われ反省しています。田中さんも大分体力が落ちられたようですが筋肉は何歳になっても鍛えられるそうです。でもあまり無理はせず悲観もせず前向きに頑張ってください。

山脇さんとはCCKの仕事やパソコンの色々を教わりました。家の新しいパソコンの購入、インストール、もお世話になりました。帰る方向が同じだったので平松さんと3人で帰りに一杯をよくやりました。東海林さんの個展に一緒に行きましたが帰りの飲み会ではお酒の強い東海林さんにはとてもとても付き合きれずお先に失礼後は山脇さんをお願いしていました。山脇さんは東海林さん、菊乃さんと女性に本当に優しくかった。

11年の東日本地震の時、電車が止まってしまい西武線の桜台駅と石神井公園駅の我々は歩いて帰ることにしました。靖国通りや白山通りは車が動けずギッシリ。人出は帰宅を急ぐ人で一杯、歩道橋の上は動けない程。靴屋でヒールを履き替える靴を買う人、自転車屋で自転車を買う人、ラーメン屋は凄い行列。都電の早稲田駐車場の近くの中華料理屋に何とか入り取り敢えず腹ごしらえ。当日の夜はことのほか寒く冷たく頬も耳も切れそうに痛かった。丁度桜台に着いたころ西武線が動き出したので山脇さんはやっと電車で帰えることが出来ました。それでも神田から5時間我々は歩いたのです。

高岡さんは「俺はマッチポンプだ」と言われ「わいがや」を主催、外部への声掛け、CCKへの勧誘と楽しそうに、賑やかに活動されていました。脳梗塞で倒れられ今はどうされておられるのでしょうか？

風巻さんはいつも穏やかに話される方で声を荒立てたことはありません。あまりに頭脳が切れるので私は話についていけないことがしばしば！風巻さんから受けた今使っているメールの説明は未だに良く解りません。河合寛治さん、赤井さん、高木さん、下田さん、篠田元理事長、癖のある秋岡さん、平田天海さん、明治大学の藤森講師、皆さん脱退され今はお会い出来ませんが懐かしく顔が浮かんできます。

画家の東海林さんとは楽しい思い出があります。東海林さんの秋田のアトリエにお邪魔したことです。栩木さんや山本工務店の社長夫妻、あと2人位でアトリエに着く途中、田沢湖や角館を観光し大曲駅からバスで結構遠かった。

山本社長が牛肉をドント送ったから焼肉パーティーだ！しかし肉がなかなか着かない、宅配業者に電話たり、買ったお店に聞いたりドタバタ劇はありましたが無事楽しくパーティーは出来ました。アトリエはさすが芸大出のプロの絵描きさん！平屋なのですが画室は50畳くらいの広さ、天井は3階くらいの吹き抜け、屋根は角度のある片斜面、外壁は真っ黒のモダンな造りです。彼女独自のキャンバスは丈夫な和紙を6枚重ねて叩いて一枚にする丈夫で大きなもの。それに絵を油彩かアクリルで描いて作品仕上げるのでした。やはりこの広さは制作と作品全体を見るには必要なのですね。彼女の個展で見る絵は独特なものですが現代の画家としては人とは一味違うものを出さなくてはいけないのでしょうか、大変だと思えます。

お会いした当時光明寺東京御廟の壁画の制作に取り組んでいて、完成作品を見せて頂きましたが墓所の壁画らしく、静かで気持ちの落ち着く素晴らしい作品でした。個展の作品、依頼された必要とされる絵画と大分ギャップありますが、プロは使い分けられるのだと感心しました。最近の作品もFacebookで見せて貰っていますが大分進化されています。彼女と知り合えたのもCCKのお陰です。

今年役員が改正になり、栩木さんや田中さんが顧問に、平松さんは理事を辞めて脱退、会計や総務事務の任務が宮坂さんに変更されました。会計も事務局、外国人材、営業本部と宮坂さんが一手に引き受けられ、入出金もネットバンクを利用と現代的に変更、若返りました。

私は最近バージョンアップされ新しくなったパソコンの字が本当に見えにくくなりましたし、身体も歳なりに衰えを感じます。弱った足で転んだり事故に会っても迷惑と思い 3 月に退職する依頼をしましたところ一応引継ぎ期間と総会の終わる時期までということで5月末退職となりました。

私の勤務は火曜日と木曜日、週 2 日なので、毎日出勤の山脇さん、後には平松さん今は大野さんがご自分の仕事以外に郵便配りや 3 時のお茶の準備、こまごまやって下さったので今まで勤められたのだと感謝しております。有難うございました。

私は思ったらすぐ口にして皆さんを不快にさせていたと思いますが、優しくお付き合い下さった渡邊理事長、栩木さん、田中さん、宮坂さん、下斗米さん、大野さん、岡崎さん、福田さん、荻野さん他メンバーの方々、本当に有難うございました。心から御礼申し上げます。

コロナ感染も第 7 波到来と驚異的な数字を出しています。
皆様も御身体ご自愛下さり、ご壮健でご活躍されることをお祈りします。

2. 影山さんお疲れさまでした。

顧問 栩木 義彦

平成 16 年(2004 年)から 18 年間にわたり C C K 事務局を支えてくれた影山和子さんが、5 月の総会を区切りに辞められた。彼女を CCK に紹介した者として、感謝の念にたえない。彼女は私のサラリーマン時代の会社(三菱重工業)の 1 年後輩であり、現役当時はいわば「手書き事務」の達人であったので、私が C C K を立ち上げてからも「できれば事務局に加わってもらえれば」と考えたことは一度や二度ではないが、都度「それは無理だな」とあきらめてきた。 というのも、「手書き事務」の達人であるだけでなく、その人柄と「歯に衣を着せぬ」キップの良さから定年後も子会社等から引く手あまたであろうと考えたからである。

しかし、彼女が CCK にご縁ができるきっかけは意外なところから訪れた。C C K は当時の幹部であった高木さんと事務局長田中さんのご努力により、国が日本商工会議所に委託して実施した「OB 人材マッチング事業」のモデル事業所に指定され、

そのころから国として真剣に考えだした定年後の企業 OB の活用を組織的に推進しようとする試みに、「OB 人材の活用」を実践すべく設立した C C K が採用されたのは、ある意味必然のことだったのかもしれない。ともあれ、「OB 人材マッチング事業」の推進が決まり、専任の事務局を置くことを求められたことから、その人選に入ったがその段階で私がまず頭に浮かんだのが影山さんである。提案の結果、大多数の理事が賛同し、私が彼女の意向を打診することになった。ただ、私は一方でそれまでの「まず断られるだろう」というイメージがあったので、恐る恐る電話し、「今仕事は何をやっている」というと、「今何にもしていない、ヒ

マだよ」、続いて「OB 人材マッチング事業事務局」の話を切り出すと、意外にもすんなりと「やるよ」という返事、そこであっさりと「OB 人材マッチング事業事務局」への参加が決定した。

ただ、ここで一つ心配なことがあった。それは彼女がパソコンを使いこなせるかということであった。私は彼女の現役当時「手書き事務」の達人であってもパソコンを使いこなしてイメージはないので、その点だけが心配だったが、それは全くの杞憂に終わった。彼女は短時間のパソコン教室通いでその壁をクリアしたからである。

こうして 2 年間「OB 人材マッチング事業事務局」の仕事を大過なくクリアして、期限を迎える時が近づいた時、田中さんをはじめとする多くの人から「当然今後も CCK 事務局をやってくれるのでしょ」という声が出てきて改めて打診した結果、「お願いします」という返事が返ってきて、改めて CCK 事務局の一員として参加が決定した。

その後の彼女の CCK の活動は皆さんもよくご存じのように「CCK にとってなくてはならない人」になっていった。ところで、彼女は常々「できるだけ長く CCK でやりたい。でも榎木さんが辞めた時には私もそれを区切りに辞める」と言っていた。それでも私が 85 歳になってもしぶとく辞めないため、ついに決心を曲げたらしい。

ともあれ、むつかしい人も多々いる組織の中で長い間お疲れさまでした。今後とも末永くお元気で。

以 上

3. ごあいさつ

事務局員 山本 奈美

4 月より影山さんの業務を引き継ぎました事務局の山本でございます。主人の仕事の関係で各地を回り、昨年上海より帰国いたしました。子育てがひと段落したのをきっかけに仕事を探していたところ、後藤理事のご紹介でご縁をいただき、CCK でお世話になることになりました。

以前は損害保険会社に勤め、子育て中は趣味のお教室をしておりましたので、オフィスワークは久しぶりですが、皆様のお役に立てますよう努めてまいりたいと思います。

趣味は、中国茶、薬膳料理、白磁の絵付け、ガーデニング、サイクリングなど。また、今年以前やっておりましたゴルフをもう一度始めてみようと思っているところです。共通のご趣味をお持ちの方は、お声をおかけいただけたら嬉しいです。

どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

(特別寄稿 21 回)

4. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳 孝彦

前回 20 報 (6 月 21 日記) の時点では、新規感染者数が減少の兆しが見え、私も山仲間に GO サインを出してしまいましたが、その直後から第 7 波の急増が始まってしまいました。総選挙などでコロナ対策は明らかに力を抜いていましたので、必然的結果ではありますが、倍加日数が 7 日と急速で、畏友黒木博士の『8 月には 5 万人に達する恐れがある』というのが現実として迫ってきました。

政府は 6 月に日本版 CDC ともいべき内閣感染症危機管理室を立ち上げたのですが、これが機能しているとは言い難い状況です。大爆発に対して医療機関充実、ベッド数増加を唱えるだけで、多数の患者を自宅待機から医療施設への搬送システムが未だに機能していません。昨年自宅死亡者が出て問題となった頃と全く変わっていません。抗原検査キットによる自己診断方針を打ち出しましたが、抗原検査キットは品不足が続いておりますし、PCR 検査も相変わらず低迷しています。

前から総感染者数は不確かでしたが、ここにきて全数把握は完全に諦めてしまったようです。現時点では日本の感染者数が世界で最も多くなってしまいました。感染者数も分からないというのは三流、四流国です。情けないことです。

東京の新患者数が 4 万人前後で、感染危険期間を 1 週間とすれば、都民の 60～70 人に 1 人は感染していて無症状者も多いとなると、非常に怖い状況です。

しかし繁華街には人が溢れ、街呑・泥酔の若者たちの報道を見ると、日本がこれまで世界一被害を抑え込んだ原動力となった①高い公衆衛生意識が薄れてきており②専門家の助言は益々尊重されなくなっているようです。

オミクロン株 BA.5 は、非常に強い感染力を持っていますが、重症化率が高いわけではなさそうです。医療施設はパンク状態に近いようですが、これは患者総数が想定外に多いためでしょう。しかし高齢者、基礎疾患保有者にとって危険であることに変わりありません。

十分な予防策を講じた上での屋外スポーツは活動可能でしょうが、基本的社会生活はもう暫く我慢を続けねばならないでしょう。私の個人的予測では、その日はそう遠くはないと踏んでいます。完全撲滅はあり得ず、インフルエンザ並みに付き合ってゆかねばならないと思いますが、感染症分類の 2 群、5 群の議論も含めて第 7 波が落ち着いた後のことでしょう。

(2022 年 8 月 1 日 記)

5. 「シマロン Cimarron 1960」

元日立ビルエンジニアリング 常務 小泉 幾多郎

オクラホマ州、1889年に号砲一発で、幌馬車隊が一斉にスタート、早い者勝ちで土地が取得出来たランドラン（土地獲得競争）から25年に亘る開拓者の物語。映画化された「サラトガ本線」「ジャイアンツ」等エドナ・ファーバーの原作の一大叙事詩を「ウインチェスター銃'73 1950」等の名匠アンソニー・マンが監督した。

実は1931年製作「シマロン」のリメイク。これが西部劇で最初のアカデミー作品賞で、その後60年ぶりでの「ダンス・ウイズ・ウルブス」受賞迄なかったのだった。西部劇らしからぬ開拓の歴史という時代の変化の中に、単なる男の英雄譚でない当時の偏見や女性の社会進出を描き出していると言ったことが評価されたのではなかろうか。

アンソニー・マン監督は、リメイク版に於いても、単なる西部劇とは一線を画し、街が発展する様が時代の変革と共に絶妙に組み込まれ、先住民に対する配慮、例えば先住民の子供が学校に通学することへの拒否反応、先住民の土地の略奪への批判や男性的な西部劇を、西部は女が作ったと言わんばかりの女性への讃歌が感じられる。

一大叙事詩の開幕らしく、ロジャー・ワグナー合唱団による勇壮なる主題歌で始まる。主演は、夫ヤンシーをグレン・フォードと妻セイブラを MARIA・シェール。幌馬車隊をはじめとするランドランの迫力はなかなかのもの。アリゾナで撮影、1000人のエキストラ、700頭の馬、500台のワゴンとバギーが登場。ランドランでは、ヤンシーは、元恋人だったディクシー・リー（アン・バクスター）に邪魔され土地獲得できず、馬車破壊し死んでしまった新聞社ウイグアム紙創刊者サム・ペグラー（ロバート・キース）の後を継ぎ編集長となる。

しかし落ち着いて仕事に専念することの出来ないヤンシーは、新しい土地競争に加わったり、米西戦争に参加し、キューバ義勇騎兵隊に加入したりで、5年間留守にする。その間妻セイブラは家を、新聞社を守り、息子も生まれる。英雄として帰ったヤンシーはその後も家に落ち着かないものの、各地で油田が見付かり、先住民との問題が起きたりしている中、ヤンシーの功績を評価することから、知事に推薦されることになる。

そこで推薦委員会の意図に不純なものを感じたヤンシーはセイブラの意向も無視して断ってしまう。セイブラと断絶したヤンシーとは音信不通、息子は先住民の娘と結婚、家を出てしまう。その間、セイブラは、ウイグアム新聞社の維持拡大を成し遂げ、創刊25周年を迎える。子息夫妻孫2人、開拓民等苦勞した関係者の祝福の中、セイブラは何処にいるかわからないヤンシーに感謝のスピーチをするのだった。

やがて第一次大戦がはじまり、再び戦いに身を投じたことを知らせる便りがセイブラに届くが、同時に戦死の報告も届くのだった。片や正義感は強いが、世渡りの上手くない夫、やりたいように生きた男に対し、家庭生活を守るために最後まで耐えての人生を歩んだ女性。夫々が薔薇色とまでは行かないまでも、波乱万丈に生きた一組の夫婦、語るに足る人生の物語でした。

尚「シマロン」はリメイクとして、成功した部類に入ると思うが、過去西部劇でリメイクされた作品が多数ある。若干例を挙げれば、ジョン・フォードの「駅馬車 1939」はゴードン・ダグラスによりモニュメントバレーからワイオミングの背景で、ゲーリー・クーパーの「ヴァージニアン 1929」はジョエル・マクリーの「落日の決闘 1945」へ、ジョンウエインの「勇気ある追跡 1969」はジェフ・ブリッジスの「トゥルー・グリット 2010」等々。何と言っても白眉は黒沢明作品のリメイク「七人の侍 1954」から「荒野の七人 1960」「マグニフィセント・セブン 2016」、「羅生門 1950」から「暴行 1964」、「用心棒 1961」からマカロニウエスタン「荒野の用心棒 1964」へ、何れも成功している。

(つづく)

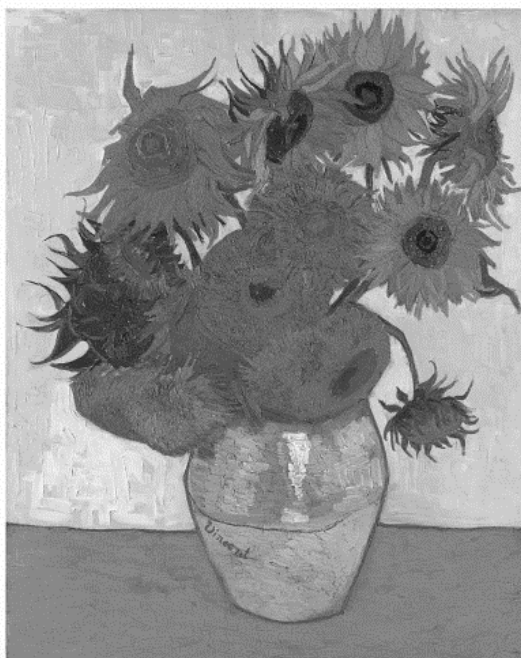


Photo: AMF / EMF/Parsons / © Ikon / Bayerische Staatsbibliothek München

6. プラスチックの成型・加工会社

田園 中児

私は昭和38年(1968年)3月、26歳で証券会社を退職して「N成型工業(株)」に入社した。この会社は父親が経営する商社の得意先である「H樹脂工業所」が倒産し、その商社が筆頭債権者であった。そこで父親が「製造部門」の会社として、社長を除き、社員全員を引き受けて昭和33年に新会社として、プラスチックの成型・加工会社を発足させたのである。父親は「社長」として名前を貸し、経理を除いて社員を信用し経営を任せていたのである。

そこへ飛び込んだものの、製造業については何の知識もないまま、机を与えられた。最初の2年間は現場で作業をしながら、工場事務所で生産管理・仕入管理・原価計算を自分なりに勉強した。2年後の昭和40年3月、父親の権限で「取締役」についたが、役員は全て年上で窮屈さを感じた。ある教本によれば「異業種には、いきなり飛び込んではいけない」とあるが、言い得て妙である。この教訓から生涯学習のテーマに「事業承継」を選んだのである。

その後、関連会社の金型工場、組立会社を吸収合併し、金型製作・成型・加工・組立と一連の製造体制を整えた。業績は営業部長の努力もあり、得意先としてはCレコード会社の音響部門、T電気会社の音響工場、CB製造のS社、それに米国のM社(ミシン会社のステレオ部門)との輸出事業を抱え、仕事に没頭、昭和44年(1969年)12月の忘年会で倒れ、約半年の入院生活を余儀された。

昭和46年(1971年)8月のニクソンショックにより、1\$=360円の固定相場が終了、スミソニアンレートで1\$=308円なり、その後48年2月から完全な変動相場制になり、円高が進みM社との取引も240円までは努力したが、採算が合わずに終息した。昭和48年3月には代表取締役専務となったが地位に関係なく、相変わらず生産管理・納品管理を主な仕事とし、営業にも首を突っ込むことになった。

昭和52年(1977年)10月社長の死去により代表取締役社長になった。しかし、資金繰りや小切手・手形の押印は相変わらず総務部長に任せていた。その後も業績は順調に推移し、自家製品の開発にも取り掛かり、年間売上げが昭和56年に約23億円になったのがピークであった。

当時、都会では「工場三法」(工場等制限法、工業再配置促進法、工場立地法)、地方では「農村地区工業等導入促進法」が施行されており、地方への工場進出が歓迎されていた。そこで、昭和57年(1982年)福島県南の中島村に工場進出を決定し、その工業団地に福島工場を建設することになった。

しかし、昭和60年(1985年)9月のプラザ合意以降、日本の輸出産業は大きなダメージを受けた。当社のような第一次下請けの中小企業は国内での仕事がほぼ全滅となった。昭和61年(1986年)10月には福島工場を売却し、会社の整理が始まった。

(つづく)

6. 事務局だより

事務局

●関東地方は6月下旬に梅雨明けが発表されたが、戻り梅雨のため二度目の梅雨明けが7月下旬になった。日本各地で「線状降水帯」が発生し水害が発生している。夏の暑さも耐え難いが、梅雨時のじめじめした気候も耐え難いところがある。

●CCK30周年記念事業実行委員会が発足しました。メンバーは委員長：宮坂武彦
委員：岡崎充徳・山本恵美の3名です。日時場所は2023年（令和5年）10月6日（金）15：00より、神田一ツ橋日本教育会館「喜山倶楽部」、予算100万円、参加者50名を予定。

●8月の行事等の予定

- 9日（火）運営会議（10：30）
- 10日（水）営担会議（10：00）
- 11日（木・山の日）～15日（月）夏季休日
- 16日（火）理事会（13：00）、研修の集い・講師は中山和大氏（16：00）
- 24日（水）営担会議（10：00）、貿易実務配信（13：00）
- 31日（水）貿易実務配信（13：00）

●9月の行事等の予定

- 7日（水）貿易実務配信（13：00）
- 13日（火）運営会議（10：30）
- 14日（水）営担会議（10：00）、貿易実務配信（13：00）
- 20日（火）理事会（13：00）
- 28日（水）営担会議（10：00）

一粒万倍

▼米国の下院議長のペロシ氏が台湾を訪問した。この訪問について中国は大規模な軍事練習で対応している。台湾が中国の領土であれば、断りなしに台湾を訪問する事は大きな問題である。中国の軍事練習に際し、米国の空母がその周辺から遠ざかったのもまた不思議である。米中の関係は今後どのような歩みをするのか興味大きい。

▼ロシアによるウクライナへの侵攻から見た我が国の国防はどうなっているのか。現在ではその戦況が瞬時に映像として、世界に配信されている。共産国家のトップは人命より利害関係と名誉欲しかないのである。我が国は誰かさんに守っていただくだけでよいのか。国防費の増額は各党も賛成しているのと同時に、消費税の減額を唱えている政党がある。入りをもって出を制するのが、予算ではないのか。国債の発行は入りなのであるのか？

編集後記：*影山さん、退職の原稿ありがとうございます。またそれに続いて榎木さんの原稿もタイミングが抜群でした。お礼申し上げます。*今月号より会報の発行を10日とせず月号に変更し、発行日を別に記載することにしました。したがって今月は8月号となります。